

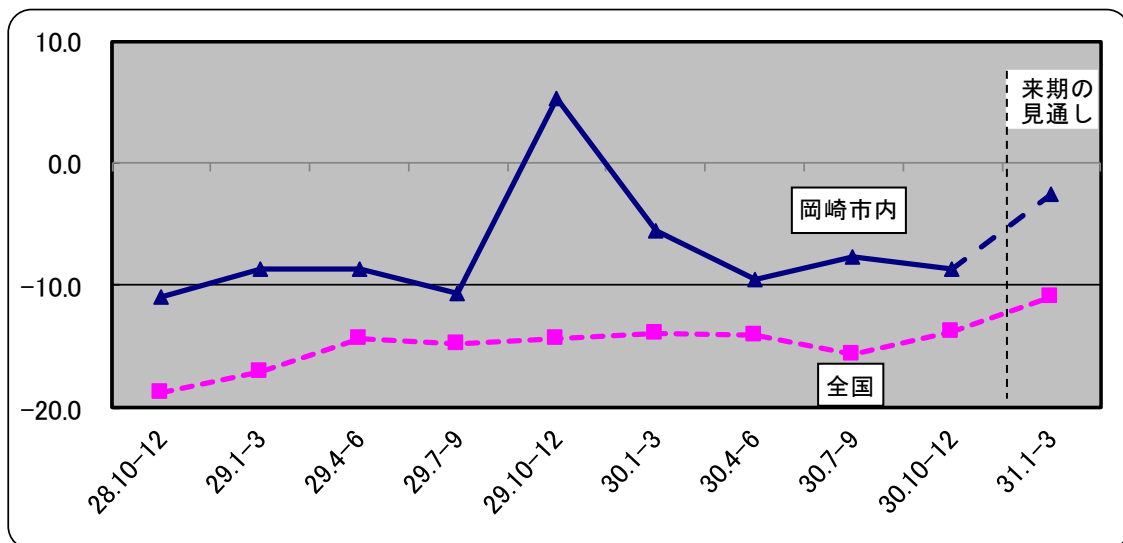
## ■岡崎市内景況調査結果（平成30年10～12月期分）

# 景況DIは緩やかに減速、先行きは改善見通し

- 調査対象：本所各部会役員・幹事 429 事業所
- 有効回答：182 事業所（回答率 42.4%）
- 調査期間：平成31年2月1日～2月15日
- 調査内容：（1）前年同期（平成29年10～12月）と比べた今期（平成30年10～12月）の状況  
（2）今期と比べた来期（平成31年1～3月）の先行き見通し  
（3）付帯調査－設備投資について
- 調査方法：ファクシミリによるアンケート方式

| 業種（対象数）    | 回答数 | 構成比    |
|------------|-----|--------|
| 製造業（126）   | 64  | 35.2%  |
| 建設業（98）    | 39  | 21.4%  |
| 小売・卸売業（94） | 38  | 20.9%  |
| サービス業（111） | 41  | 22.5%  |
| 合計（429）    | 182 | 100.0% |

### ■市内景況全体の概要



※全国データは、(独)中小企業基盤整備機構が発行する中小企業景況調査報告書より引用。  
(全国の商工会議所・商工会の経営指導員、及び中小企業団体中央会調査員による調査)

○岡崎市内の全業種の今期（平成30年10～12月）景況DIは、 $\Delta 8.6$ （前期比0.9ポイント減）で、悪化傾向となり、引き続き、全国データ $\Delta 13.8$ を上回った。また、業種別では、建設業、小売・卸売業は改善傾向となり、一方、製造業、サービス業は悪化傾向となった。

○来期（平成31年1～3月）景況DIは、 $\Delta 2.5$ （今期比6.1ポイント増）となった。また、製造業が大幅な改善傾向の見通しとなった。しかし、サービス業は今期に引き続き悪化傾向の見通しとなった。

#### 【データ：全業種】

|        | 前期<br>(H30.7-9月期) | 変化幅               | 今期<br>(H30.10-12月期) | 変化幅            | 来期の見通し<br>(H31.1-3月期) |
|--------|-------------------|-------------------|---------------------|----------------|-----------------------|
| 景況     | $\Delta 7.7$      | $\downarrow 0.9$  | $\Delta 8.6$        | $\uparrow 6.1$ | $\Delta 2.5$          |
| 売上額※   | 8.4               | $\downarrow 10.3$ | $\Delta 1.9$        | $\uparrow 8.7$ | 6.8                   |
| 資金繰り   | 0.6               | $\downarrow 0.6$  | 0.0                 | $\uparrow 1.2$ | 1.2                   |
| 採算(収益) | $\Delta 13.5$     | $\uparrow 1.2$    | $\Delta 12.3$       | $\uparrow 7.4$ | $\Delta 4.9$          |

※売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

◎本報告書中のDIとは、「デフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、 $30 - 20 = 10$ となる。また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「 $\uparrow$ 」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「 $\uparrow$ 」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

## ■業種別の概要

### (1) 製造業

○景況DIは△20.3となり、前期と比べ13.3ポイントのマイナスとなった。

原材料仕入価格DIは、引き続き悪化傾向となり57.6となった。

売上額DIの下落により、資金繰りDI、製品在庫DI、採算(収益)DIは悪化傾向となった。

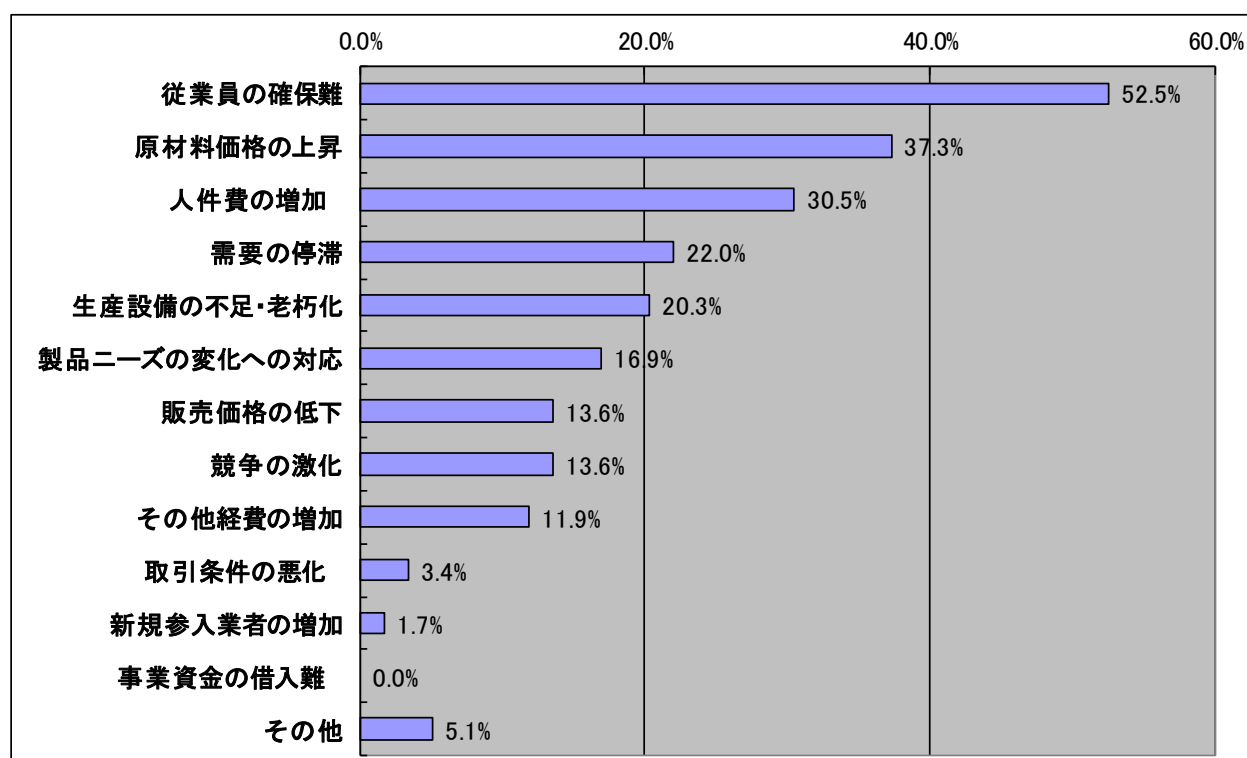
○来期については、景況DIは20.3ポイントのプラスとなり改善傾向の見通しとなった。

売上額DIは13.6となり、原材料仕入価格DIは25.4となり、ともに改善傾向の見通しとなった。結果として、採算(収益)DIは、改善傾向の見通しとなった。

#### 【データ：製造業】

|           | 前期<br>(H30.7-9月期) | 変化幅   | 今期<br>(H30.10-12月期) | 変化幅   | 来期の見通し<br>(H31.1-3月期) |
|-----------|-------------------|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 景況DI      | △7.0              | ↓13.3 | △20.3               | ↑20.3 | 0.0                   |
| 売上額DI     | 17.5              | ↓20.9 | △3.4                | ↑17.0 | 13.6                  |
| 原材料仕入価格DI | 47.4              | ↑10.2 | 57.6                | ↓32.2 | 25.4                  |
| 製品在庫DI    | 10.5              | ↓1.9  | 8.6                 | ↓5.2  | 3.4                   |
| 資金繰りDI    | 3.5               | ↓3.5  | 0.0                 | 0.0   | 0.0                   |
| 採算(収益)DI  | △10.5             | ↓6.7  | △17.2               | ↑18.9 | 1.7                   |

#### 【経営上の問題点】※複数回答



#### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・ 製造価格の値上げ交渉が思うように進まない。(製造業)
- ・ 仕入れ価格の高騰が続く、採算が厳しい状況が続いている。(繊維製品製造業)(印刷物製造業)
- ・ 配送料の増加の負担(食品製造業)
- ・ 10月以降消費税10%の影響で、トヨタ生産台数の減が見込まれ、経営に悪影響があるのではないか?(自動車部品製造業)
- ・ 外注加工賃の上昇が続いている。(繊維製品製造業) ・ 配送料の増加負担(食品製造業)
- ・ 製造単価安が続くなかの原材料価格高はこたえる。(製造業)

## (2) 建設業

○景況D Iは9.1となり、前期と比べ17.0ポイントのプラスとなった。

資材仕入価格D Iは、18.7ポイントのプラスとなり悪化傾向となった。完成工事額D I、受注(新規契約工事)額D Iともに悪化傾向を示した。景況D Iは改善を示したものの、その他のD Iでは悪化傾向となった。

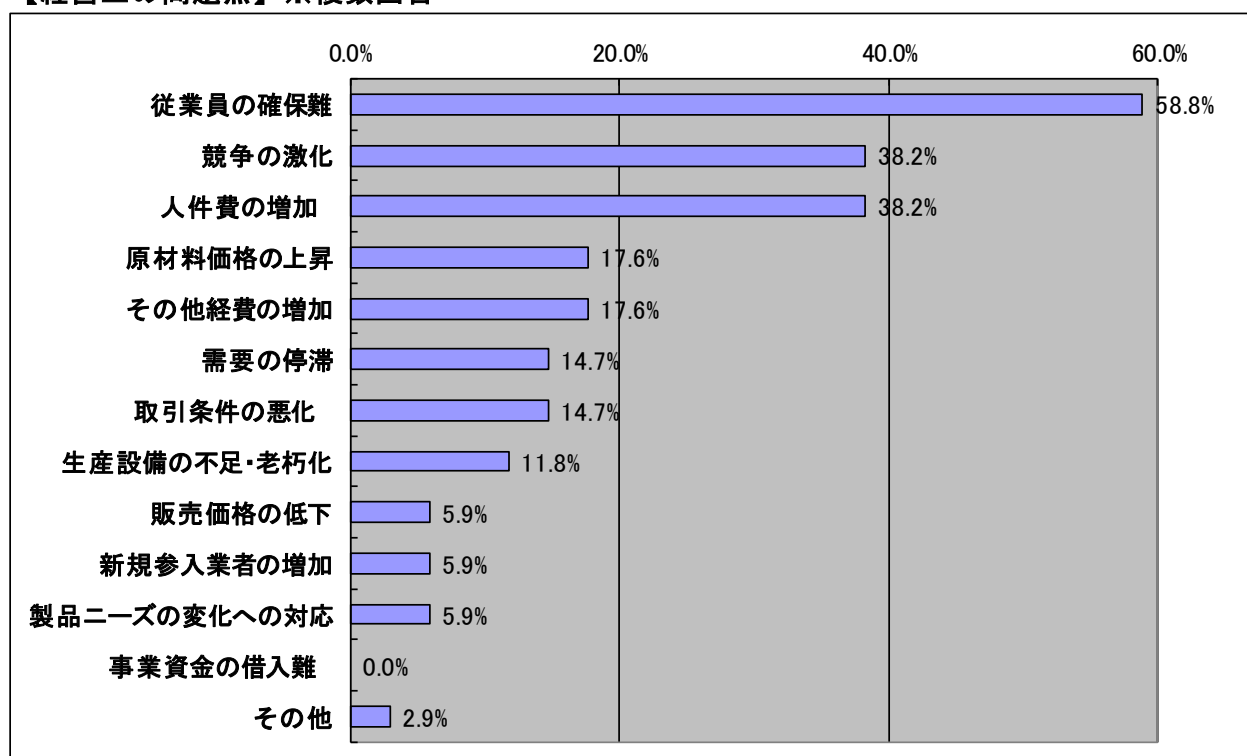
○来期については、景況D Iは、3.0ポイントのプラスとなり、やや改善傾向の見通しとなった。

完成工事額D Iは、39.4ポイントのプラスと大幅な改善傾向の見通しとなった。また、資材仕入価格D Iも、26.3ポイントのマイナスとなり改善傾向の見通しとなった。

### 【データ：建設業】

|              | 前期<br>(H30.7-9月期) | 変化幅   | 今期<br>(H30.10-12月期) | 変化幅   | 来期の見通し<br>(H31.1-3月期) |
|--------------|-------------------|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 景況D I        | △7.9              | ↑17.0 | 9.1                 | ↑3.0  | 12.1                  |
| 完成工事額D I     | 8.3               | ↓17.7 | △9.4                | ↑39.4 | 30.0                  |
| 受注額(新規契約)D I | 11.1              | ↓14.2 | △3.1                | ↓6.6  | △9.7                  |
| 資材仕入価格D I    | 38.9              | ↑18.7 | 57.6                | ↓26.3 | 31.3                  |
| 資金繰りD I      | 8.3               | ↓2.2  | 6.1                 | ↑0.2  | 6.3                   |
| 採算(収益)D I    | △2.8              | ↓3.3  | △6.1                | ↑9.2  | 3.1                   |

### 【経営上の問題点】※複数回答



### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・現場管理者の確保難（総合建設業）
- ・現場の下請業者の確保難、また関連する警備員の確保も難しい状況。（総合建設業）
- ・従業員の高齢化が進んでおり、技術承継が進んでいない。（建築請負業）
- ・消費税増税10%への対応と対策が十分でない。（設備工事業）
- ・技術労働者の減少により先行きが不安。（建築請負業）

### (3)小売・卸売業

○景況DIは0.0となり、前期と比べ18.2ポイントのプラスとなり改善傾向を示した。

売上額DI、商品仕入価格DI、採算(収益)DIともに改善傾向を示したが、その結果、商品在庫DIは、14.5ポイントのプラスとなり悪化した。

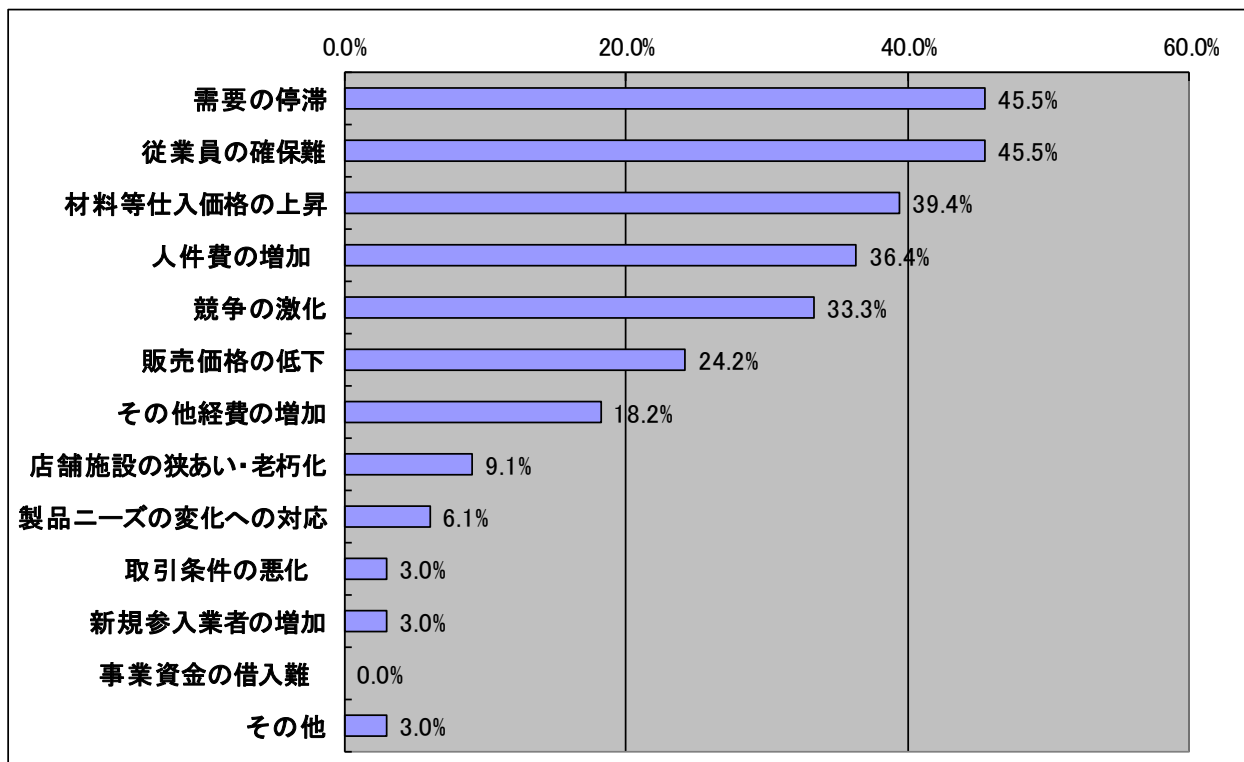
○来期については、景況DIは0.0となり今期と横ばいの見通しとなった。

売上額DIは18.3ポイントのマイナスとなり悪化傾向を示した。しかし、商品仕入価格DIは17.1ポイントのマイナスとなり改善傾向の見通しとなった。

#### 【データ：小売・卸売業】

|          | 前期<br>(H30.7-9月期) | 変化幅   | 今期<br>(H30.10-12月期) | 変化幅   | 来期の見通し<br>(H31.1-3月期) |
|----------|-------------------|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 景況DI     | △18.2             | ↑18.2 | 0.0                 | 0.0   | 0.0                   |
| 売上額DI    | △6.5              | ↑21.7 | 15.2                | ↓18.3 | △3.1                  |
| 商品仕入価格DI | 54.8              | ↓3.3  | 51.5                | ↓17.1 | 34.4                  |
| 商品在庫DI   | 9.7               | ↑14.5 | 24.2                | ↓14.8 | 9.4                   |
| 資金繰りDI   | △6.5              | ↑9.5  | 3.0                 | ↑6.4  | 9.4                   |
| 採算(収益)DI | △21.2             | ↑18.2 | △3.0                | ↓3.3  | △6.3                  |

#### 【経営上の問題点】※複数回答



#### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・ 商品価格の値下り、競争激化など厳しい状況が続いている。(骨董品等小売業)
- ・ 売場、現場の人がいない中、さらに採用難が続いている。(総合小売業)
- ・ 人件費の高騰により、経営を圧迫する状況が続いている。(総合小売業)
- ・ 仕入れ価格が上昇し販売価格は低下する中、収益は厳しい状況が続いている。(総合小売業)

## (4) サービス業

○景況D Iは△13.9となり、前期と比べ16.5ポイントのマイナスとなり、悪化傾向を示した。

その他のD Iも全体的に悪化傾向となり、マイナスの領域に再度入った。

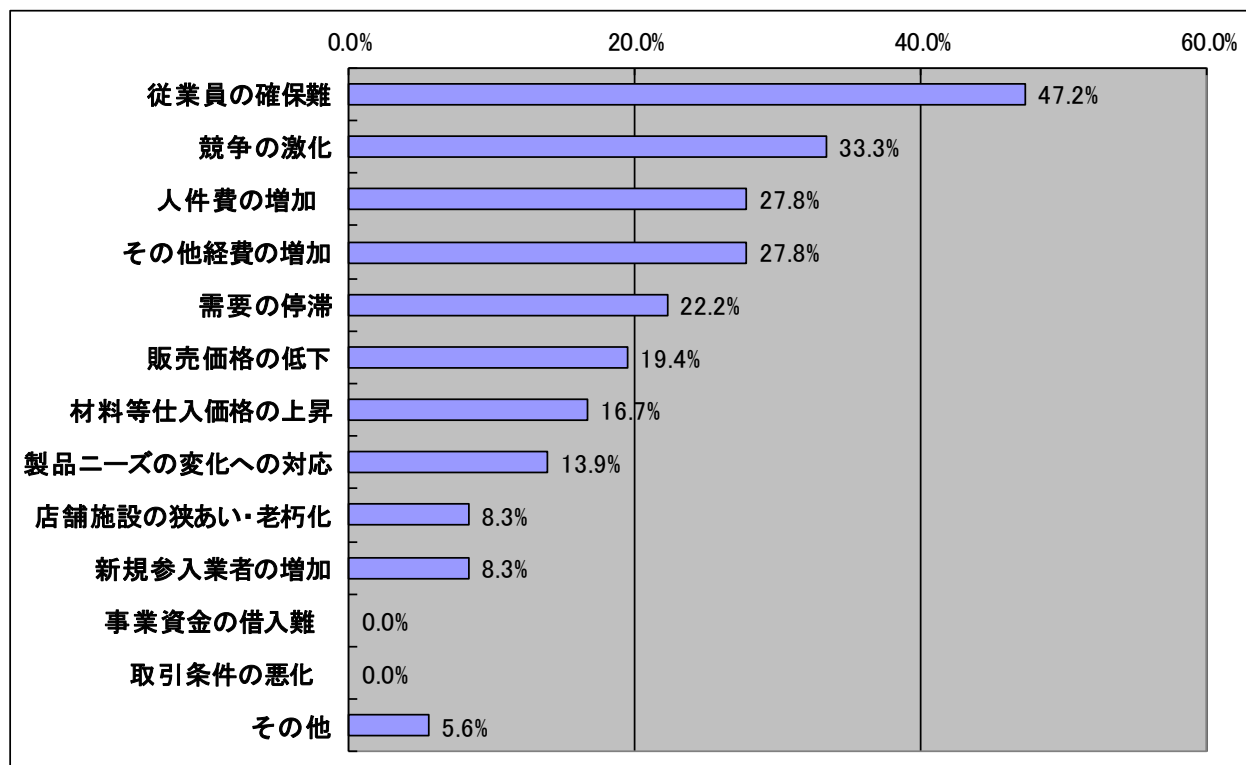
○来期の見通しについては、景況D Iは8.3ポイントのマイナスとなり、悪化傾向の見通しとなった。

売上額D Iと利用客数D Iは、悪化傾向を示し、結果として採算（収益）D Iも悪化の見通しとなった。

### 【データ：サービス業】

|           | 前期<br>(H30.7-9月期) | 変化幅    | 今期<br>(H30.10-12月期) | 変化幅    | 来期の見通し<br>(H31.1-3月期) |
|-----------|-------------------|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 景況D I     | 2.6               | ↓ 16.5 | △ 13.9              | ↓ 8.3  | △ 22.2                |
| 売上額D I    | 5.1               | ↓ 13.4 | △ 8.3               | ↓ 13.9 | △ 22.2                |
| 利用客数D I   | △ 4.9             | ↓ 0.7  | △ 5.6               | ↓ 8.7  | △ 14.3                |
| 資金繰りD I   | △ 5.1             | ↓ 3.2  | △ 8.3               | 0.0    | △ 8.3                 |
| 採算(収益)D I | △ 17.9            | ↓ 1.5  | △ 19.4              | ↓ 2.8  | △ 22.2                |

### 【経営上の問題点】※複数回答



### 【主な事業者の声 ～直面する経営課題・業界動向～】

- ・ 事業多忙により、これまでの事業の廃止について検討しているが進まない。（IT関連業）
- ・ 引き続き、飲食業は人手不足が顕著である。（飲食店）
- ・ 天候不順や、自然災害の影響から客が安定しない、また実施できず支出のみかかる（観光業）
- ・ 燃料費の高騰により、経費がかさむ。（輸送業、観光業）
- ・ 人員不足により休暇取得時の人員配置に余裕が持たせられない。（運送業）
- ・ 社員の年齢構成に偏りが出てきている。高齢化が進んでいる。（飲食業）

## ■付帯調査：設備投資動向調査結果（平成30年下期・平成31年上期）

# 「実施していない」が、5割超 来期投資意欲は、再度高まる

○今年下期（平成30年7～12月）において、「設備投資を実施した企業」は全業種では、「実施していない」が50.6%となった。前回の設備投資に関する調査と同様の傾向を示している。

「実施した企業」の業種別では、製造業が62.7%、サービス業が50.0%、小売・卸売業が45.5%、建設業が29.4%となった。

○「設備投資を実施した企業」に投資した内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「機械」が50.0%で最も多く、以下、「車両・運搬具」42.5%、「備品」「OA機器」32.5%と続いた。

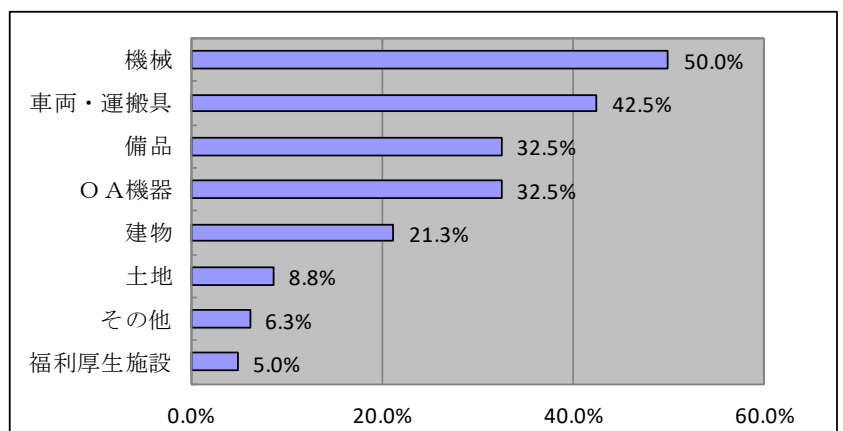
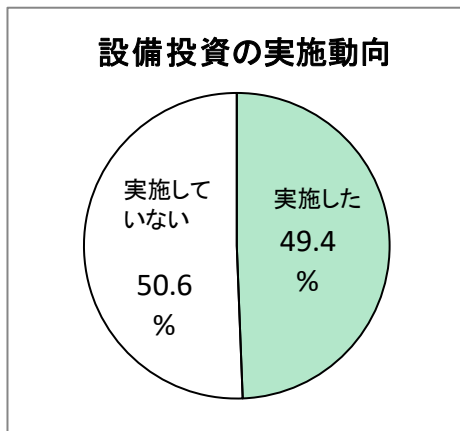
○一方、来年上期（平成31年1～6月）において、「設備投資を計画している企業」は全業種で54.9%と、昨年上期の実施動向（53.4%）を1.5ポイント上回る結果となった。

「計画している企業」の業種別では、製造業が69.5%、サービス業が52.8%、建設業が47.1%、小売・卸売業39.4%となった。

製造業の投資意欲は依然維持されているが、新たにサービス業の投資意欲が高まってきている。

○「設備投資を計画している企業」にその投資する内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「車両・運搬具」が43.8%となり、前回の調査から「機械」を上回った。

### （1）平成30年下期（平成30年7～12月）の設備投資実施動向（全業種）



### （2）平成31年上期（平成31年1～6月）の設備投資計画動向（全業種）

